

『不動産のための計量分析』レジュメ N0.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

1. 授業フォルダの使い方とExcel&Wordによる講義の進め方

1.1 データのダウンロード（DL）とレポートのアップロード（UP）

「不動産のための計量分析」では、レジュメ以外のデータや、問題などのダウンロード（大学のサーバーから取り出すことです。以下、DLと記す）、アップロード（大学のサーバーに返却することです。以下、UPと記す）には大学の授業用フォルダ（Econome）を用います。授業用フォルダは学内のPCから学生用IDで入ると**マイコンピュータやエクスプローラでアクセスできます**ので確認してください。

まず、Econome フォルダ(以下、EFと記す)の中の、Texts フォルダ (以下、TFと記す) があり、その中に data_01.xls が有ることを確認してください。

次に、皆さんのユーザーフォルダ (以下、UFと記す) の中に『計量分析』というフォルダを作ってください。今後、この講義で使うデータ等はこの『計量分析』フォルダで管理することにしましょう。

先ほどの、TF内にある data_01.xls を各自の『計量分析』フォルダにDLしてください。DLの後、ファイル名 data_01.xls の前に各自の学籍番号を付けてください。例えば、学籍番号 51040999 の学生であれば、ファイル名を 51040999data_01.xls (全部半角) としてください。ファイルのアイコンにマウスを持って行き、右クリックすると「名前の変更」が出てきます。それを実行してください。

作業後は必ず各自のUFにセーブしてください。 作業したことが無駄になってしまいます。

次に、TFにある rep_01.doc を同じようにUFにDLしてください。DLの後、data_01.xls と同様に rep_01.doc の前に各自の学籍番号を付けてください。

これら**作業ファイル 51050999data_01.xls や 51050999rep_01.doc をEF内の Reportbox(皆さんのレポートを入れる郵便箱です。他人のレポートは見られないようになっていきます)にUPして、評価を得ることが出来ます。** ファイル名を間違ったり、時間内に提出しないと出席にもなりませんので注意してください。

上記の作業は以下の流れです。さあ、すぐやる。出来ない場合は教員かティーチングアシスタント（TA）を呼ぼう。

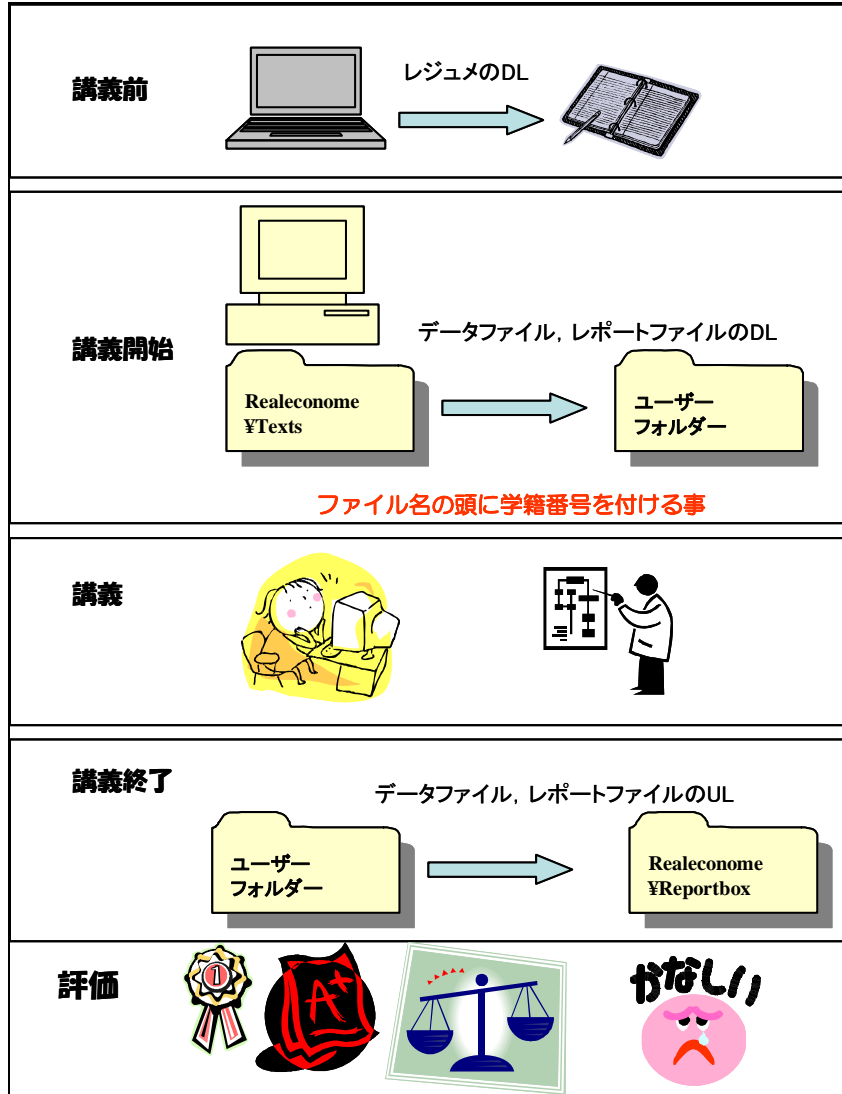
- ① PCのマイコンピュータから大学の授業用フォルダ（Econome）内にTF、Reportbox（以下Rbと記す）が在ることを確認。
- ② 各自のユーザーフォルダにフォルダ名“計量分析”を作成。
ユーザーフォルダのツールバーのファイルをクリックして、**新規作成**→**フォルダ**を左クリックすると“新しいフォルダ”が作成されます。この“新しいフォルダ”を右クリックすると**名前の変更**として“計量分析”を入力する。
☆ユーザーフォルダが表示されない学生は申し出ること。
- ③ TFから data_01.xls, rep_01.doc を各自の“計量分析”へ data_01.xls, rep_01.doc をDL（ドラッグすればよい）。
- ④ data_01.xls を****data_01.xls に、rep_01.doc を****rep_01.doc に名前を変える（****は各自の学籍番号）。
data_01.xls ファイルにカーソルを持って行き、右クリックして**名前の変更**として data_01.xls の前に、半角で学籍番号を入力する。

『不動産のための計量分析』レジュメ NO.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

図1 講義の流れ



『不動産のための計量分析』レジュメ N0.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

1.2 Excel & Wordの使い方 (この程度は必要)

今回は Excel を用いて簡単な作業をしてもらいます。まず、****data_01.xls (****は学籍番号) を開いて下さい。下記のような表が出てきます。これは<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/h17-nenpou/17annual-report-j.html>からDLした表をいくつかの項目にまとめたものです。このように、経済データは簡単に入手することが出来ます。不動産に関するデータも結構見られますので下記の浅田先生のリンクページから試してみてください。http://members.jcom.home.ne.jp/0722575411/link.htm

表1 家計消費と構成項目の名目値 (単位: 億円)

	家計可処分所得	家計消費計	A食品・飲料等	B住居・電気・ガス・水道	C保健・医療	D娯楽・レジャー・文化等	Eその他	(再掲)持ち家の帰属家賃
1980	156,214	129,673	33,892	25,288	4,895	18,821	46,777	15,903
1981	167,724	137,919	35,866	27,636	5,709	19,783	48,926	17,221
1982	176,879	148,088	37,283	29,430	6,630	21,686	53,059	18,461
1983	184,657	155,821	38,836	31,233	6,881	22,834	56,036	19,735
1984	194,029	164,024	39,997	33,338	7,060	24,623	59,007	21,159
1985	203,679	173,563	41,321	35,397	7,680	26,692	62,473	22,716
1986	210,114	180,542	41,517	36,435	7,513	29,025	66,053	24,204
1987	215,494	188,879	41,649	38,261	7,564	31,121	70,285	25,931
1988	228,813	199,021	42,376	40,408	7,407	33,612	75,218	27,607
1989	244,984	212,758	43,634	43,585	7,259	36,726	81,554	29,994
1990	264,280	228,287	45,967	47,032	7,272	41,004	87,013	32,401
1991	282,952	241,350	48,431	50,648	7,334	43,040	91,896	34,979
1992	292,026	251,248	49,864	54,250	7,418	44,853	94,862	37,578
1993	296,876	257,462	50,501	57,537	7,461	45,993	95,971	40,174
1994	303,131	265,639	51,702	60,358	7,904	46,663	99,011	42,173
1995	304,969	269,280	52,357	62,548	7,885	46,570	99,921	43,785
1996	305,253	275,291	52,450	64,838	7,955	47,297	102,752	45,289
1997	311,884	280,601	52,150	67,134	8,680	48,808	103,830	46,798
1998	314,203	279,447	52,927	68,306	9,240	48,495	100,481	47,955
1999	311,426	277,365	51,904	69,469	9,537	48,385	98,070	48,941
2000	306,765	277,160	49,541	70,503	9,937	48,273	98,907	49,910
2001	297,663	277,440	49,412	71,816	10,159	47,756	98,298	50,998
2002	298,344	275,356	48,972	72,813	10,441	46,923	96,208	51,878
2003	297,561	274,246	47,892	73,811	10,900	46,547	95,096	52,719

(資料)『国民経済計算年報』。(注) Aは元表の「食料・非アルコール飲料」「アルコール飲料・たばこ」の合計。Bは元表の「住居・電気・ガス・水道」。Cは元表の「保健・医療」。Dは元表の「娯楽・レジャー・文化」「外食・宿泊」の合計。Eは元表の「被服・履物」「家具・家庭用機器・家事サービス」「交通」「通信」「教育」「その他」の合計。

- 作業1. では、<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/h17-nenpou/17annual-report-j.html>から、家計の目的別最終消費支出の構成(名目)のページを探ってください。そのアドレス(URL)を****rep_01.docの所定の場所に貼り付けてください。(4点)
- 作業2. 上表の項目A「食品・飲料等」(ExcelのE列)からE「その他」(ExcelのI列)は家計消費の内訳です。各年の構成比(各構成項目別支出/家計消費計;構成比だから%表示にすること。小数点以下1桁まで表示させる)をK列からO列に出してください。数式を用いてね。(10点)
- 作業3. 上表の可処分所得からEその他までの項目で、エクセルを用いて時系列の折れ線グラフをエクセル上に作ってください。(10点)
- 作業4. 今日の講義の感想を50字以上、100字未満で書いてください。(3点)
- 作業5. ****data_01.xlsと****rep_01.docのファイルをReportboxにUPして今日の講義は終了です。お疲れ様でした。(これ出来なかったら点つかないよ)

「不動産のための計量分析」レジュメ N0.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

1.2 Excel (&Word) の使い方 (この程度は必要)

(1) エクセルの画面

- 1つの分析に使うデータは1つのブックに入れておく
- シート名で何のデータか一目で分かるように

前回の課題で、エクセル上で構成比を出すというのがありました。ここでは、計量経済で使うエクセルで最小限必要なテクニックを学びましょう。今回の内容に自信がない学生さんは、きちんと復習しておきましょう。さもないと、後々、大変な目にあいます。

エクセル画面はファイル (F)、編集 (E)、表示 (V) といったコマンドのメニューが示されるメニューバー、コマンドをワンクリックで実行できるアイコンをまとめたツールバー、 f_x という記号の右側が白いボックスになっている数式バーが表示されています。

これらメニューバーやツールバーはメニューバーのツール→ユーザー設定で変更可能です。自分で使いやすい設定にしてください。

エクセルはブックと呼ばれるウィンドウで作業を行います。ひとつのブックには複数のシートがあり、シートの追加や削除が出来ます。それほど大量のデータを扱うのでなければ、**1つの分析に使うデータは1つのブックに入れておく方が作業は楽**になります。また、ポインタをシート名の所に持って行き、右クリックするとシート名を変更できます。**シート名で何のデータか一目で分かるように**しておきましょう。

各シートは 65,536 行×255 列からなりますので、合計 16,711,680 のマスがあることとなります。このマスのことをセルといいます。これだけ大きなシートですから膨大な個票データ (後ほどデータの性質で習います) で無い限り**一つのシートには一つのデータは入る**はずで

図 1-1 エクセル画面



「不動産のための計量分析」レジュメ N0.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

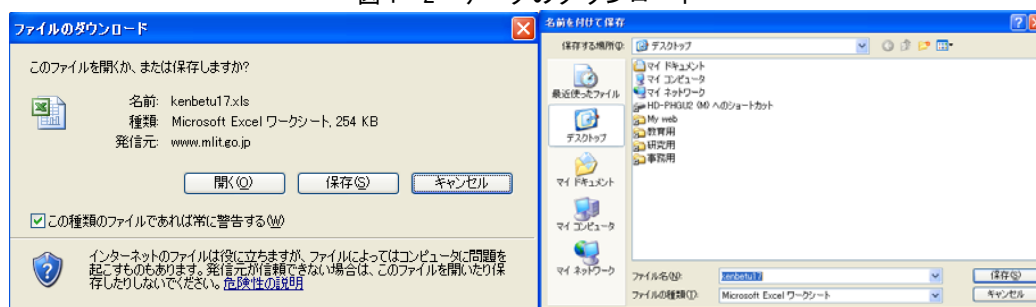
※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

(2) エクセルデータのダウンロード

- だいたいのデータはwebから入手できる
- データの特性に常に気をつけて

前回作業ではダウンロードしたエクセルシートを使いましたが、実際にダウンロードしてみましょう。今回は不動産業にとっても関心がある住宅着工数です。国土交通省の基礎統計資料は前回講義で学習したように<http://www.mlit.go.jp/toukeijouhou/chojou/>で入手できます。この中の、建築着工統計調査、17年から「平成17年計分着工新設住宅戸数：利用関係別・都道府県別表」を探してください。「平成17年計分着工新設住宅戸数：利用関係別・都道府県別表」をクリックすると下左のような画面が出てきます。「開く」をクリックするとInternet Explorer上でエクセルデータが開きますし、「保存」をクリックすると下右のように保存先を聞いてきます。デスクトップに置いて構いませんし、ユーザーフォルダに置いて構いません。「開く」をクリックして、Internet Explorer上でエクセルデータが開き、必要なデータだけ（今回はSheet name “kenbetu17”）エクセルにコピーしても構いません。エクセルのシート上Aと1に囲まれた空欄の所をクリックするとsheet全てがアクティブになり、これをコピーすればsheet全てをコピーすることが出来ます。どちらの方法もやってみましょう。

図1-2 データのダウンロード



作業 1. kenbetu17.xls をDLして、****data_02.xls と名前を変えて各自のUF（ユーザーフォルダ）の計量分析の中にセーブしてください。sheet name “kenbetu17”を“基データ”に変更してください。****は学籍番号。（2点）

今回の講義では**data_01.xls と****data_02.xls の両方を使いますので、両方とも立ち上げておいてください。**

データの種類

計量分析で用いる統計データは大きく分けて以下の3通りのデータがあります。分析によって必要なデータの種類が異なってきますから常に気をつけておいてください。

- ① **時系列データ**：時間（年，四半期，月，日など）の経過に沿って収集されるデータ。前回の****data_01.xls のGDPデータは代表的な時系列データです。
- ② **クロスセクションデータ**：時間を固定して経済主体の属性（国，都道府県，産業，収入階層など）別に収集されるデータ。今回の****data_02.xls のsheet name “基データ”は県別データですからクロスセクションデータになります。
- ③ **パネルデータ（プールデータ）**：時系列データとクロスセクションデータを組み合わせたもので、例えば、時系列に県別着工戸数を収集すればパネルデータとなります。

「不動産のための計量分析」レジュメ N0.2

クラス担当教員名※1	学部・学科名	学籍番号※2	氏名※2	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

(3) エクセルでの計算方法

- 計算を行うときは、まず「=」を半角で入力
- 他セルを参照する数式をコピーするときは絶対位置と相対位置を上手に使い分け
- 計量分析で使う手法はほとんど関数になっている
- シート上の作業はキーボード操作で簡単になることもある。ShiftキーやCtrlキーによるショートカットを使おう。

数式の入力

数字や数式はセルをアクティブ(セルをクリックする)にして、半角で入力しましょう(数字のみであれば、全角で入力しても自動的に半角に入力されますが半角にしておきましょう)。セルに入力するデータは、計算によって値を返す数式か、計算を行わない文字列になります。計算を行うときは、まず「=」を半角で入力してから式を書きます。「=」の後に演算子を用いて記述します。

表 1-1 主な演算子

演算子 (よみ)	意味	例	セルへの入力例
+	加算	12+10	=12+10
-	減算	12-8	=12-8
-	負の数	-8	-8
* (アスタリスク)	乗算	2×5	=2*5
/ (スラッシュ)	除算	12÷4	=12/4
^ (ハット)	べき算	4 ³ (=4×4×4)	=4^3

他セルの参照

既に他のセルに入力されているデータを参照(利用)して計算を行うことも出来ます。例えば、構成比を求める作業が前回ありましたが、図 1-3のセル k5 に入力されている数式(=E5/\$D5)は E5 のセルにある 33,829 を d5 にある 129,673 で割ることを意味しています。ここで、D5 の前に\$がありますが、これは絶対位置を表し、ここでは列(アルファベットで示される)がコピーしても変わらないことを示します(数式内のセルをアクティブにして「F4」(ファンクション4キー)を押すと、行と列の絶対化、行の絶対化、列の絶対化が出来ます。何度か押して試してみてください)。

図 1-3 他セルを参照した計算式

	A	B	C	D	E	K	L	M
1								
2			家計の目的別最終消費支出の構成					
3						構成比		
4			家計可処分所得	家計消費計	A食品・飲料等	A食品・飲料等	B住居・電気・ガス・水道	C保健・医療
5	1980	156,214	129,673	33,892	26.1%	19.5%	3.8%	
6	1981	167,724	137,919	35,866	26.0%	20.0%	4.1%	
7	1982	176,879	148,088	37,283	25.2%	19.9%	4.5%	
8	1983	184,657	155,821	38,836	24.9%	20.0%	4.4%	
9	1984	194,029	164,024	39,997	24.4%	20.3%	4.3%	
10	1985	203,679	173,563	41,321	23.8%	20.4%	4.4%	
11	1986	210,114	180,542	41,517	23.0%	20.2%	4.2%	
12	1987	215,494	188,879	41,649	22.1%	20.3%	4.0%	
13	1988	228,813	199,021	42,376	21.3%	20.3%	3.7%	
14	1989	244,984	212,758	43,634	20.5%	20.5%	3.4%	
15	1990	264,280	228,287	45,967	20.1%	20.6%	3.2%	
16	1991	282,952	241,350	48,431	20.1%	21.0%	3.0%	
17	1992	292,026	251,248	49,864	19.8%	21.6%	3.0%	

「不動産のための計量分析」レジュメ NO.2

クラス担当教員名※1	学部・学科名	学籍番号※2	氏名※2	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

数式のコピー

下図のように K5 に数式 (=E5/\$D5) を入力して、セル K5 の右下にある黒● (フィルハンドル、図 1-4 を参照。) にマウスを持って行き、左クリックしたまま行や列にずらす (ドラッグ) と計算式がコピーされます。縦にドラッグするとセル K6 には (=E6/\$D6) という数式が入ります。横にドラッグすると、相対位置 (\$) が無いであれば、セル L5 に (=F5/E5) という数式が入るため構成比ではなくなります。そこで、図のように列だけ絶対位置とした数式 (=E5/\$D5) を入れておくと、D はずれませんのでセル L5 に (=F5/\$D5) が入り構成比となります。このように、**多数の数式をコピーするときは絶対位置と相対位置を上手に使い分け**てください。

図 1-4 フィルハンドルによる数式のコピー

B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
家計の目的別最終消費支出の構成									(単位:10億円)	
	家計可処分所得	家計消費計	A食品・飲料等	B住居・電気・ガス・水道	C保健・医療	D娯楽・レジャー・文化等	Eその他	(再掲)持ち家の帰属家賃	A食品・飲料等	B住居・電気・ガス・水道
1980	156,214	129,673	33,892	25,288	4,895	18,821	46,777	15,903	26.1%	
1981	167,724	137,919	35,866	27,636	5,709	19,783	48,926	17,221		
1982	176,879	148,088	37,283	29,430	6,630	21,686	53,059	18,461		
1983	184,657	155,821	38,836	31,233	6,881	22,834	56,036	19,117		
1984	194,029	164,024	39,997	33,338	7,060	24,623	59,007	21,000		
1985	203,679	173,563	41,321	35,397	7,680	26,692	62,473	22,710		

セルの表示形式

次に%表示にするのは、%表示にする範囲を指定し、ツールバーの%をクリックするか、メニューバーから書式→セル→表示形式→パーセンテージとしてください。書式を設定しないと無駄な桁まで表示されますので桁数の指定で読みやすい表にしましょう。**きれいな表を作ることはプレゼンテーション能力の一つです。**書式を設定して、セルのコピー (上記の数式のコピー) をすると書式も一緒にコピーされます。最初に書式を設定してから数式をコピーするのが楽です。

関数の入力

関数はある決まった計算手順に名前を付けたもので、一回目の課題となった平均や分散など**計量分析で使う手法はほとんど関数**になっています。関数は

=関数名 (数値・セルの番地・セルの範囲など)

と入力する。また、ツールバー上で f_x ボタンを押すと、関数リストと説明文が表示され関数を入力することができます。

関数は、引数 (ひきすう) と呼ばれる数値を入力し、計算結果 (返された値を**返値** (かえりち) と呼ぶ) が返してくれます。数値を直接入れてコンマで区切っても計算は可能ですし、他のセルやセルの範囲を引数として関数に入れることも出来ます。

例えば、セル b11 に

=average(b2:b10)

と入力するとセル b11 には B 列目の 2 行目から 10 行目までの数値の平均値が返されます。複数の参照範囲が連続の場合はコロン(:) で区切ることを忘れずに。複数列にまたがる場合は “=average(b2:c10)” という引数も可能ですし、複数箇所の引数の場合 “=average(b2:b5,b7:b10)” のようにコンマ (,) で複数の参照範囲 (“b2:b5” と “b7:b10”) を引数とすることも可能です。エクセルでは大量のデータを扱うことがあります。その際には下記の範囲の簡単な入力法を使ってください。

関数で分からないときはエクセルの HELP で検索してみましょう。Excel 窓の右上にある「質問を入力してください」に書き込むと、だいたい分かりますよ。

『不動産のための計量分析』レジュメ NO.2

クラス担当教員名※ ¹	学部・学科名	学籍番号※ ²	氏名※ ²	提出日

※¹:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※²:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

表 1-2 計量分析で使う主な関数子（関数は大文字でも小文字でもよい）

関数	機能
SUM(範囲)	引数（関数の範囲にあるセルのこと）の合計を返す。
AVERAGE(範囲)	引数の平均値を返す。
VARP(範囲),	引数を母集団とした分散を返す。VAR は引数を正規母集団の標本と見なし、標本に基づいて母集団の分散の推定値(不偏分散)を返す（後日説明）。
STDEVP(範囲)	引数を母集団とした標準偏差を返す。STDEV は引数を標本と見なし、標本に基づいて母集団の標準偏差の推定値を返す（後日説明）。
COUNT(範囲)	引数含まれる数値の個数を返す。
COUNTIF(範囲,検索条件)	引数に含まれる検索条件のデータ個数を返す。
MAX(範囲)	引数の中の最大値を返す。
MIN(範囲)	引数の中の最小値を返す。
ABS(数値)	引数の絶対値を返す。
ROUND(数値,桁数)	数値を桁数で四捨五入する。
LOG(数値 1,数値 2[底])	底が数値 2 のときの数値 1 の対数値を返す。
LN(数値)	底が e の対数値を返す。
EXP(数値)	$e^{\text{数値}}$ の値を返す。

★範囲の簡単な入力法

連続する複数のセルを選択する場合には、**Shift** キーと **←**, **↑**, **↓**, **→** キーを利用する。

- **Shift** + **→** は選択セルを右側に伸ばす
- **Shift** + **↓** は選択セルを下側に伸ばす

これに **Ctrl** キーを併せて用いると、1列や1行まとめて選択することが出来ます。

- **Ctrl** + **Shift** + **→** は選択セルをデータの右端まで伸ばす
- **Ctrl** + **Shift** + **↓** は選択セルをデータの下端まで伸ばす

この **Ctrl** キーはセルの移動の時にも用います。

- **Ctrl** + **→** はその列の右端にアクティブセルが移動します
- **Ctrl** + **Home** はデータの先端にアクティブセルが移動します
- **Ctrl** + **End** はデータの終端にアクティブセルが移動します

ためしてみましょね。


作業 2. ****data_02.xls の Q 列に各都道府県の新設住宅戸数総数の全国に占めるシェア（構成比）を出してください（5点）。次に、R 列に各都道府県の持家戸数の各都道府県の総戸数に占めるシェアを（構成比）を出してください（5点）。またセル R68 に総戸数に占める持家シェアの平均値、セル R69 に総戸数に占める持家シェアの最大値を出してください（3点×2）。

「不動産のための計量分析」レジュメ N0.2

クラス担当教員名※1	学部・学科名	学籍番号※2	氏名※2	提出日

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く ※2:学籍番号及び氏名が未記入のもの、また授業終了後に提出されたものは採点しないので、注意すること。

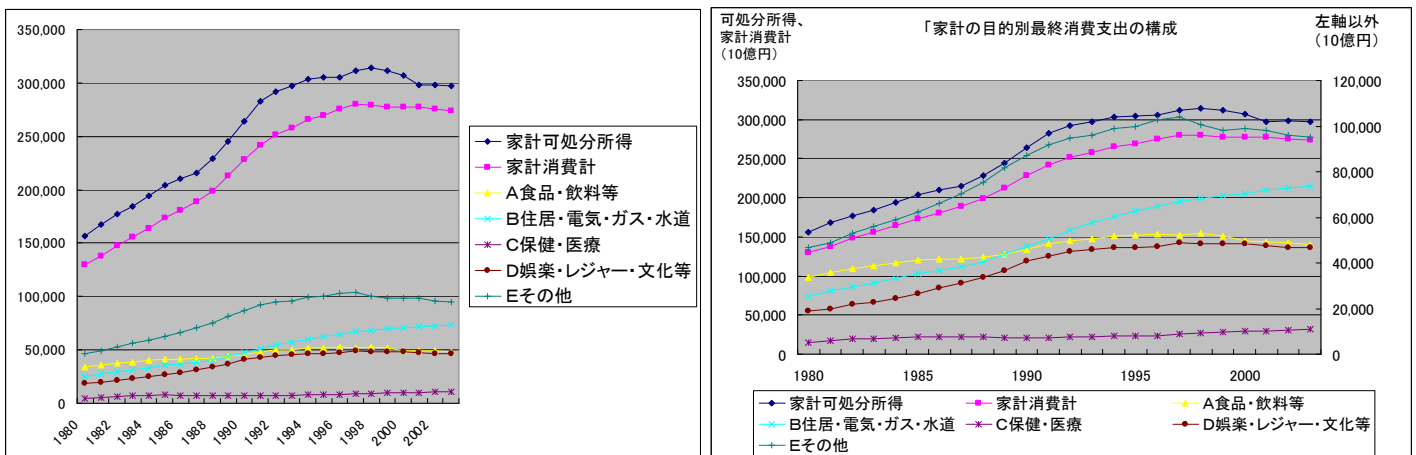
(4) エクセルの作図

次に、作図の課題です。エクセルでは様々な図を作ることができ、分かりやすい図を作ることにもプレゼンテーション能力の一つです。さて、エクセルで図を作る方法も様々ありますが、ここでは簡単にきれいな図を作る方法を示します。まず、図示する範囲をドラッグしてください。ここでは、B4:I28で、この範囲をドラッグして、グラフウィザードボタンをクリックしましょう。次に、指定された折れ線をチェックして、完了をクリックしてください。とにかく図を作ってから見やすくします。

完了をクリックして出来た図が左です。これは非常に見づらい。まず、横軸のメモリアルが2年毎で見づらくなっています。これを直します。次に、プロットエリアがダークグレーですが、これをなおします。また、**凡例** (項目名とプロットパターンを示したもの) が大きすぎてグラフが小さくなるので、見やすくなるように変えます。

最も重要なことは左図だと可処分所得と家計消費計の変化は分かりやすいが、その他の項目の変動は分かりづらいですね。このようなときは**第二軸**というのを使います。最後に、**軸を明示(軸ラベル)**して、右図のようになります。やってみましょう。

図1-5 エクセル図の作り方



作業 3. ****data_01.xls の図を見やすいように (上図の右のように「**軸ラベル**」「**単位**」「**タイトル**」も必要) してください (5点)。

(5) ワードファイルへの貼り付け方

さて、ワードファイルへの図や表の貼り付け方ですが、エクセル上のグラフを右クリックしてワードで貼り付けを行うとファイルが大きくなることがあります。**編集**→**形式を選択して貼り付け**、で図 (メタファイル) を選択して、小さくするのが簡単です。図を変えたり、複雑なことをするのならリンク貼り付けや、エクセルオブジェクト貼り付けを行っても良いのですが、レポートの提出ではお勧めしません。

作業 4. ****rep_02.doc に図を貼って (貼りつけ方の「形式」に注意)、各項目別の推移と家計可処分所得の関係を 200 字以上、500 字以内で述べなさい。(5点)。

作業 5. ****data_02.xls と****rep_02.doc を R b に U P してください。